

こがねい

2000.4. 第7号

# 放射能測定室だより

発行：小金井市放射能測定器運営連絡協議会  
連絡先：小金井市 緑町 2-14-29-12  
Tel. 042-386-5730 (荒木)



いよいよ20世紀最後の年を迎えました。大量殺戮、環境破壊の世紀とされた今世紀もあと数ヶ月となりましたが、今世紀はまた、我々人類自身が地球上のいたる所で放射能汚染を引き起こした世紀であったとも言えるでしょう。来たる新世紀にはもうこれ以上マイナスの遺産を産み出さないことを願いつつ、本年度も測定を中心に活動して参ります。

わたしたちも  
注目しています

## 電気の小売自由化ってなあに？

本年3月より大口電力の小売自由化がスタートしました。  
電力販売は競争の時代に突入した、とされています。  
建設、運転、維持管理、そして廃炉後にも莫大なコスト  
がかかる原子力発電は高い電気料金の犯人！！？

新エネルギーがあちこちで話題になっていますね。新聞、雑誌また国会でもとりあげられるようになりました。それは環境にやさしいエネルギーをという世界的な流れとともに東海村で起きた臨界事故等で原子力への不安も追い風になっていると思います。

そんな中で今年3月21日から大口電力の小売が自由化されました。大口電力の自由化とは簡単に言ってしまえば、いままで電気を売る会社は日本には東京電力など地域分割された電力会社9社しかありませんでしたが、今年3月21日より他の会社でも電気を売ることができるようになりました。新聞を見てもオリックス、米エンロン、三菱商事、NTT、東京ガス、丸紅等、多くの会社が参加しようとしています。それらの会社は自分で発電設備をつくったり、また自家発電をしている会社から余っている電気を買って現在使われている送電線を電力会社から有料でかりても今の電気代より安くなるとしています。ただし工場、デパート、オフィスビル等たくさんの電気を買う所が対象になりますから、私達一般家庭で使う電気料が安くなるのはまだ先になりそうです。いずれにせよ今の電気代は高いと言えるわけです。

新エネルギーの開発、電力小売自由化が進み日本でもやっと電力供給のありようが多様化していくと思われれます。原子力発電に依存してきたエネルギー政策が大きく見直しを迫られる日も近いでしょう。原子力発電所の事故による放射能汚染食品を測り続けている私達はこの大口電力の小売自由化の動きに大きな期待を寄せています。



9/30

茨城県東海村にJCOという核燃料を作る会社がありました。



# 東海村であの日何が起きたのか!?

## 事故から半年、もう一度ふりかえってまとめてみました。

この日はいつもとはちょっと違う製品を作っていたのですが、それをしっかり認識していない係員がいつもと同じように、材料のウランを「沈殿槽」にドーンと入れたため



10:30 核分裂反応が起こってしまいました。  
\*ウランやプルトニウムは一定の量が集まると、自然に核分裂が始まってしまいます。

中性子が飛び出す

沈殿槽の中は「小さな原子炉」の状態になりました。この原子炉にはなにも遮蔽設備がないので、強い放射線と中性子線が外へ飛び出して行きました。作業をしていた3人は重度の被曝をして、救急車で病院へ運ばれました。

放射線  
中性子線  
冷却水

\*建物のすぐ外の道路で通常の16000倍の放射線が2キロ離れた原子力研究所で通常の数倍の中性子線が検知されました。中性子線はコンクリートも貫通して遠くまでとんでいきます。

21:00 政府対策本部第一回会合  
本部長 小池総理大臣

22:30 茨城県知事が記者会見  
10キロ以内の屋内退避を要請

JR運休 高速道路閉鎖  
★日立那珂市にも対策本部

自衛隊化学防護隊11人  
化学防護車2台、除染車1台到着  
(中性子線には役立たず)

夜も更けて

科技庁長官「沈殿槽を取り囲んでいる水を抜いて臨界を止めよう」と決定

2:35 JCO社員突撃隊により水抜き作業開始

その結果  
**臨界がつついて**  
ことが確認された。



被曝しながら作業は難航

6:00 作業終了

6:30 臨界終息

16:00 茨城県に対策本部  
中性子線の測定器が運ばれてやっと測定開始

14:30 科技庁に対策本部

15:30 3.50m以内の住民の避難開始

14:30 JCO所長が村役場を訪ね周辺住民の避難を要請

11:30 茨城県に事故発生連絡が入る

11:30 東海村に対策本部設置

12:30 村内緊急放送  
放射能もれです  
自宅に入って下さい  
窓をしめて下さい!

☆今回の事故では、放射性物質（死の灰）が外部にあまり出なかったため、チェルノブイリで起きたような汚染ほとんどありませんでしたが、長時間放出され続けた中性子線ため、大勢の人が被曝しました。10月1日になって放射能測定がさかんに行われましたが、中性子線は体を貫通してしまうので、あとでいくら放射能の測定をしても検出はされません。

☆放射線被曝から身を守るには ・放射線源から離れること ・被曝時間を短くすることが最も大切といわれます。今回はそのどちらも適切に行われませんでした。（遅れたとはいえ350m以内の住民が避難したのに、非難先が近かったため、かえって被曝登録されることになってしまいました。）

☆原子力先進地であり、専門家もいるはずの東海村で、この事故後の対応はあまりにひどすぎる!!と思います。事故を起こしたJCOの責任追及はされましたが、国や県の原子力防災の無策ぶりは「今回は仕方なかった」で済まされてしまうのでしょうか？



【1999年度 測定結果一覧表】 (1999年4月～2000年3月)

測定品目	件数	原産国	測定結果
乳製品(粉ミルク、牛乳、 インスタントコーヒーミックス)	11	日本、不明	放射能は検出されませんでした
きのこ (干し椎茸、ふくろたけ、きくらげ)	4	日本、マレーシア、 中国、不明	〃
(ポルチーニ茸)	1	イタリア	82ベクレル/kg
(ポルチーニ茸)	1	イタリア	62ベクレル/kg
(ポルチーニ茸)	1	イタリア	19ベクレル/kg
(干し椎茸)	1	不明	14ベクレル/kg
海藻(寒天、こんぶ)	2	日本	放射能は検出されませんでした
小麦粉(生ラビオリ、スパゲッティ)	3	イタリア	〃
ポルチーニ入りスパゲッティ、 茸のスパゲッティ	2	イタリア	〃
ドラゴンフルーツ	1	ベトナム	〃
大豆粉乳	1	不明	〃
飲料水	2	日本、フランス	〃
スパイスミックス、ハーブ	3	イタリア、フランス、 不明	〃
ココナッツミルク	1	不明	〃
ブルーベリー	1	日本	〃
ミートソース、サラミソーセージ	2	ヨーロッパ、不明	〃
栗ペースト	1	フランス	〃
はちみつ	1	日本	〃
ワイン	1	ブルガリア	〃
さつまいも	1	日本	〃
塩、深層水塩	2	フランス、日本	〃
干し柿	1	日本	〃
乾燥トマト	1	イタリア	〃
米	1	イタリア	〃
干し芋	1	日本	〃

計47件 (他に保育園・学校給食食材を29件測定しました)  
\*放射能は検出されませんでした

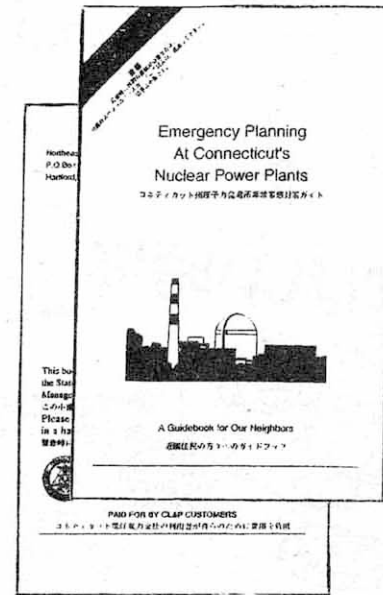
☆セシウムはチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能です。  
(過去のビキニ環礁や中国での核実験により地表に蓄積されている放射能でもあります。)

☆ヨウ化ナトリウム検出器にて6時間測定しました。

★ポルチーニ茸について…98年1月、厚生省はイタリアから空輸された食用きのこの乾燥ポルチーニ茸(やまどりたけ)から基準値を超える1kgあたり731ベクレルのセシウムを検出し積み戻しを指示しました。人気食材ということもあり、測定をしています。

できました!

『コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド』日本語版



← 米  
国で  
配布  
された  
原  
版  
と  
ど  
く  
り  
に  
作  
り  
ま  
し  
た。

売れまあ?

お申し込み、お問い合わせは  
協議会まで。

頒価 1部 800円 + 送料

小金井市放射能測定器運営連絡協議会の設立準備にかかわった6人のメンバーによる「小金井市に放射能測定室を作った会」で作成しておりました『コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド』日本語版が昨年9月ようやく完成しました。この小冊子は米国コネティカット州にある原発周辺の住民用に配布されている事故発生時の防災ガイドを日本語に翻訳したもので、米国においてはどのような対策がとられているのかを易しく読み取ることが出来ます。あろうことか、完成の翌日に東海村でのJCO臨界事故が起こり、あらためて今の日本には住民が自らを守るガイドになるようなものがほとんどないという現実を思い知らされることになりました。この事故のため、売れ行きは予想をはるかに超え、現在までに1000部以上が全国各地の方々の手に渡っています。また、驚くほどの反響があり、ここでご紹介できないのが残念です。各地で住民自身が自分たちのための防災対策を作りあげていく、その急がれる作業にこの小さなブックレットが少しでもお役に立ってくれたら、と願っています。そしてさらに、このようなガイドなど必要のない世の中が一日も早く来るよう、日本中のたくさんの方々につながっていきたくて考えております。

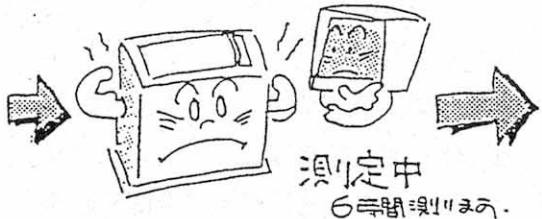
# ▶ 測定依頼をお寄せください!!

申し込み方法等は でお知らせいたします!

なお、実際に測定にかかわりたい方、  
 市に協議会に参加したい方、いつでも募集して  
 いますのでご連絡ください。大歓迎です。

## はかってほしい時は

- 1 市役所経済課に問い合わせの  
 てんわをしてください。  
 042-387-9831  
 (経済課)
- 2 測定日の指定が  
 あります。  
 CRAB  
 に記入  
 ください
- 3 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を  
 上ノ原会館 に持参し、協賛会測定室に  
 わたします。(※検体は細かくしてください)
- 4 検体票に  
 必要事項を記入
- 5 夕方、検体を引き取りに来てください。  
 測定結果を記入した通知書をお受け取り  
 ください



※ 370㍈以上が不適合された場合は別途、  
 希釈測定を行ないますので、希釈  
 いただいた検体は返却できません

★ 200㍈の容量が必須です。  
 (スリッパ等は150㍈くらいなど  
 生したけでは210㍈くらい)  
 ※ 検体によって容量が異なるため、  
 市に協議会に問い合わせください。

★ 食品に限ります。  
 ★ 無料です。